

2. 第8回みちのくウイルス塾報告 (9月19・20日)

西村 秀一

独立行政法人国立病院機構仙台医療センター・臨床研究部ウイルスセンター

「みちのくウイルス塾」って？

「みちのく仙台」由来の当塾も今年で8回目を迎えました。平成13年、当時日本ウイルス学会将来構想委員だった東北大学小柳義夫教授（現、京都大学教授）と獨協医科大学増田道明教授らがウイルス学会の一般向け広報活動のひとつとして企画し、それに国立仙台病院（現、仙台医療センター）の筆者が協力する形で始めた講演会です。とかく難しく近寄り難いと思われがちな「ウイルス学」および「ウイルス学者」と呼ばれている人たちは、実は面白くて魅力的な存在であることを広く知ってもらい、理解者を増やし、そのうちにここから将来ウイルス分野に進む若者も出てきてくれることを願いつつ始めた会です。

今年の「みちのくウイルス塾」は…

これまで毎年7月の海の日に開いていましたが、今年は多くの学生さんたちが参加しやすいよう、9月のシルバーウィークの開催となりました。

これまででは、さまざまなウイルスに関連する講義を行うテーマ分散形の講演会でしたが、今回は「インフルエンザ特集」にしてみました。香港インフルエンザの出現から約40年、新(亜)型インフルエンザの世界的大流行(パンデミック)が始まっており、一般の方々のインフルエンザに対する関心も高まっていると思われ、それらに答えての初めての試みでした。はたしてその結果はといえば、これまでの最高記録となる2日間で延べ280人の参加があり、会場が一時座れない程の当塾始まって以来の大盛況となりました。

最初に筆者がこのたびのインフルエンザの歴史から見た位置づけや、過去の新型出現の際の様子などを解説し、つぎにインフルエンザウイルスの遺伝子進化に詳しいJRAの杉田繁夫先生が、イヌとウマのインフルエンザの話をしてくださいました。そして北大獣医学部の迫田義裕先生が、獣医師としての立場から動物のインフルエンザ、とくにブタとトリとヒトのインフルエンザといった広い視野でのお話をしてくださり、そのあとに東北大の押谷仁先生が、新型インフルエンザ問題をレビューしてくださいました。ここで1日目の講義が終了です。このあと意見交換会が開かれ、ちょっとした飲み物と軽食を片手に講師の先生方とあるいは参加者同士で話が盛り上がりました。普段なかなかお話の出来ない講師の先生方と気軽にお話し出来、参加者みな

満足してくれたと思います。

翌日は、最初に川崎市で内科・小児科を開業のかたわら、インフルエンザの臨床や疫学を研究なさっておられる廣津伸夫先生が、家庭医・学校医という第一線の立場から、インフルエンザの学校内、家族内感染のきめ細かな解析をご披露してくださいました。つぎに、東大医科研の大学院生で、臨床と基礎をつなぐ領域での将来のホープ、小児科医の田村大輔先生が、おもにタミフル耐性の基礎から検査までを、わかりやすく話してくださいました。それに引き続き、東北大医学部学生で当ウイルスセンターで研修中の武井健太郎君が、タミフル耐性ウイルス感染患者へのタミフル投与の有効性の有無について、仙台自衛隊病院の協力で二年がかりで解析した成績をすばらしい切り口で発表してくださいました。講義の最後はインフルエンザウイルスのレセプターのスペシャリスト、静岡県立大学薬学部の鈴木隆先生の登場です。薬学の立場から現在の抗インフルエンザ薬と近い将来出るのであろうお薬の話と、先生の教室で現在進行中の、細胞表面のレセプター様物質のウイルス感染における役割についての新パラダイムについてお話ししてくださいました。

最後に、獨協医大の増田道明先生が、双方向性の無線器端末を使用してクイズ形式の塾のまとめ小テストをやってくださいました。これは一昨年から始まった企画で、増田先生が講師たちの講義を聴きながら問題集をつくるもので、もうすでに当塾の目玉となっているものです。リアルタイムで正解と参加者の正答率がわかるもので、2日間の講義の内容を再確認することができ、さらには最後に高得点者が表彰され（今回は筆者が最高得点を取ってしまい、反則だということで表彰辞退でしたが…笑）今回も随分と盛り上がりました。

参加者は学生さんたちが中心ではありますが、中には両親と一緒に参加していた小学5年生や小学6年生の受講生がいたり、また毎年参加の常連で、若い人たちに混じって熱心にノートを取っているご年輩の当院登録医の先生方の姿も印象的でした。また質疑応答に関しては、ほとんど時間無制限にしており、会場から活発な質問がありました。講師の先生方も「素人のむずかしい質問」に丁寧にご答えくださいましたので、時間を忘れるほどの非常に内容の



写真の説明：本年のようす ①2日目終了時の集合写真 ②今年のポスター ③熱心に講義を聴く聴講者たち
④演者ら ⑤会場からの質疑 ⑥電子顕微鏡体験企画

濃いものとなりました。(写真参照)

また、今回は新しい試みとして2日目終了後に、電子顕微鏡によるインフルエンザウイルス観察の体験等も企画しました。初めて見る電子顕微鏡体験に多くの参加者が喜んでおられたようです。(写真参照)

「みちのくウイルス塾」について、詳しいことは…

来年は自分もぜひ行ってみたいけど、参加するにはどうしたらいいの？

どんな内容の講義があるの？ 講師の先生は？ 会場と

なった仙台医療センターはどこにあるの？…等々、みちのくウイルス塾についてもっと詳しくお知りになりたい方は、当院ウイルスセンターのホームページ(わいらす)にサイトがありますので、ぜひ一度こちらを訪れてみてください。
<http://www.snh.go.jp/subject/26/juku/index.html>

なお、このサイトには一昨年から聴講者にお願いし、講師ごとに割り当てを決めて書いてもらった各講師の講義「聴講録」を、講師のご好意で提供していただいた講義スライドといっしょに掲載しております。ぜひご覧ください。